教団新報

定　価　1部150円（本体137円〒共214円）
予約購読料　1年分　〒共　5,350円
紙代のみ　3,750円
振替 00140―9―145275
本紙を購読ご希望の方は、前金をそえて、お近くのキリスト教書店へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所　日本基督教団
169-0051　東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内　電話03（3202）0546
FAX03（3207）3918
URL http://uccj.org
発行人　秋山　徹
編集主筆　嶋田恵悟
印刷所　株式会社きかんし

高井戸教会（西東京教区）

主の慈しみに生きる人々よ　主に賛美の歌をうたい　聖なる御名を唱え、感謝をささげよ。ひととき、お怒りになっても　命を得させることを御旨としてくださる。泣きながら夜を過ごす人にも　喜びの歌と共に朝を迎えさせてくださる。

（詩編30・5～6）

メッセージ

泣きながら夜を過ごす人にも

詩編30編1節～13節

七條 真明

嘆きつつ歩む日々の中で

神学生の頃、イスラエルを旅しました。エルサレムのホテルでは、結婚の祝いがあり、ユダヤの人々が輪になって踊る光景を目にしました。部屋の外から見ていると、手招きをされ、祝いの踊りの輪の中に加えられる経験を与えられました。

「あなたはわたしの嘆きを踊りに変え、粗布を脱がせ、喜びを帯としてくださいました」。詩編の詩人は、主なる神がこの自分を喜びの中へ入れてくださったことへの感謝を、印象深く語ります。

しかし、「わたしの嘆き」とあるように、詩人の歩みには深い嘆きの時がありました。粗布をまとうように、悲しみの中におり、神の御前に悔い改めずにおれない。そういう時があったのです。

私は、この詩編を読み、喜びの祝いの中に加わるように招かれて踊った、その出来事をも思い起こしながら、今私たちが置かれている状況を覚えずにはおれなくなります。

教会では多くの集会を中止し、感染対策をなしつつ捧げる礼拝にも「どうぞどなたでもいらしてください」と招くことができなくなりました。

礼拝では、マスクを着けます。今やほぼすべての人がマスクをして町を行き交います。マスクで顔を隠すように、心のうちに悲しみ、嘆きを隠して日々を歩む多くの人たちがいることを思います。その悲しみには、死に対する不安、恐れが深く結びついています。

詩編の詩人もまた、重い病でしょうか、死の世界へ下るような危機的状況の中にいました。その危機の中で、主なる神によって引き上げられ、命を得させていただいた。その救いの経験を与えられて、「主よ、あなたをあがめます」と歌うのです。

詩人は、その救いの経験が、個人的なものにとどまるものではないことを知っています。神の民として生きる共同体の中で、共有できる経験だと知っているのです。だからこそ、「主の慈しみに生きる人々よ」と呼びかけ、神を賛美し、感謝して生きるべきことを語り、確信をもって言うのです。「ひととき、お怒りになっても、命を得させることを御旨としてくださる。泣きながら夜を過ごす人にも、喜びの歌と共に朝を迎えさせてくださる」。

主なる神は、私たちが、滅びではなく、命を得て生きることを御心としてくださる。泣きながら過ごす夜があったとしても、悲しみから喜びへ至る、そのような朝を迎えることを、神は願っていてくださると詩人は語ります。

危機の中で恵みを知る

しかし、今、詩人が確信をもって語ることができるのは、そのことを大きく見誤っていた過去があるからです。「平穏なときには、申しました。『わたしはとこしえに揺らぐことがない』と」。

詩人は、自分が何の問題もなく生きていた時、どんなことがあっても揺らぐことなく生きられる、とさえ思って生きていた。でも、平穏無事に生きられる、そのことも神から来ているものであることを知らなかった。主なる神が、御手をもって支えてくださっていたから、平穏無事に生きていられたのだ。詩人は、そのことを、神の御顔が隠され、恐怖と不安の中に陥った、その経験の中で知ったのです。

危機的な状況に遭遇して、私たちが思い至るのは、当然のごとく日々を生きているのではないということではないでしょうか。主の日ごとに皆で集い、礼拝を捧げる。神を讃美し、感謝する。そのことも当たり前のことではありませんでした。マスクをし、声を潜めるようにして皆で讃美しなければならない日々の中で、そのことを知るのです。神をほめたたえて生きること、感謝し、祈ること、それらは恵みとして与えられていた。マスクをし、沈黙を強いられているような状況の中で、身に染みて分からせていただく機会を与えられているのだと思えてなりません。

詩人もまた、沈黙せざるを得ないような危機の中にいました。しかし、その中で詩人は祈ります。口を開き、大きな声をもってではないかもしれません。でも、心からの叫びとも言える祈りを、主なる神に捧げました。「主よ、わたしはあなたを呼びます。主に憐れみを乞います。わたしが死んで墓に下ることに何の益があるでしょう。塵があなたに感謝をささげ、あなたのまことを告げ知らせるでしょうか」。

詩人は、逆境を通り抜けるように、主に引き上げられ、救い出されました。その中で、こう歌うことを許されたのです。「あなたはわたしの嘆きを踊りに変え、粗布を脱がせ、喜びを帯としてくださいました。わたしの魂があなたをほめ歌い、沈黙することのないようにしてください」。

喜びの朝を望み見て

三度主を否んだペトロの涙を思います。それは、ペトロの罪を、弱さと愚かさを、知り尽くしておられた主イエスの言葉を思い起こして流された涙でした。ペトロが滅び陰府に下ることのないように、ペトロの罪の赦し、救いのためにも十字架に死なれた主イエスが復活なさった喜びの朝へと続いている涙でもありました。「泣きながら夜を過ごす人にも喜びの歌と共に朝を迎えさせてくださる」。詩編に歌われていることの真実を、ペトロの姿の中にも見出す思いがするのです。

危機的な状況が続きます。その間は、讃美も感謝も声を潜めるようになさねばならないのかもしれません。しかし、主なる神がこの時を終わらせてくださるでしょう。私たちも心から言うことができるようにしてくださるでしょう。「あなたはわたしの嘆きを踊りに変え、粗布を脱がせ、喜びを帯としてくださいました。わたしの魂があなたをほめ歌い、沈黙することがないようにしてください」。その時には、皆で喜びのうちに集まり、大きな声で心からの讃美を捧げたい。多くの人を礼拝へ招きたいと思います。

そして、たとえそれまでの間に私たちが地上の人生を終えねばならなかったとしても、死に勝利された主によって死を越える命を与えていただいた者として、詩人と共に歌う者でありたい。「わたしの神、主よ、とこしえにあなたに感謝を捧げます」。

なお続く試練の日々、制約がある中でも、心を込めて神を賛美し、感謝しつつ、礼拝を捧げていきたいと願うのです。

（高井戸教会牧師）

2021年夏、教区のプログラム

コロナ禍2年目の夏、それぞれの課題と取り組む

★《京都教区》「教会と社会」特設委員会主催「社会セミナー2021」

日本学術会議の任命問題は、どこが問題？
―教会が考えなければいけない大切なこと

8月8日に京都教区「教会と社会」特設委員会主催で開かれた「社会セミナー2021」（於・室町教会）において、関西学院大学神学部の芦名定道教授（元京都大学大学院文学研究科教授）を招いて、上記の表題の集会を開き、「現代史のなかの日本キリスト教―日本学術会議問題と憲法」という題の講演を聞いた。当日は、京都にコロナ感染急拡大のために、会場に参集することは中止せざるを得ず、急遽すべてをズームミーティングで行う集会へと変更した。はじめてのことばかりだったので戸惑いもあったが、これからの集会の持ち方を模索していく上では有益な集会となった。

急遽ズームに変更して

芦名教授の講演の骨子は、日本学術会議の任命問題の本質はどこにあるのかということであった。この問題は単純ではなく、「学問の自由」への政治介入に他ならないということ。そして、それは日本学術会議という機関の成り立ちに関わる問題であるということだった。この日本学術会議は日本の科学技術の研究成果が、戦時中に軍事転用されてしまったことへの反省に立ち、各分野から学者が集まって、同じ轍を踏まぬよう政府に対しての見張り番的な役割を果たす目的で立ち上げられたとのこと。それが日本学術会議という政府から独立した機関であり、また存在意義であると芦名教授は熱く語った。

今回、菅政権は、これまではしてこなかったその構成メンバー選びに口をはさみ、候補者の中から任命しない者を出した。「学問の自由」は憲法が保障している大切な権利のひとつである。それと同時に「思想・信条の自由」とも直結している。つまり、この問題を放置していれば、私たちの信仰に対しても政治介入がなされかねない。

私たち教会も戦時中、戦争協力をしてしまった苦い歴史を持つ者として、その反省を日本学術会議のように活かして歩みをなしていかなければならないとの思いを強くした。

（川上　信報）

★《東中国教区》宣教部社会委員会主催　講演会

自死、虐待、DVの現状を知る

東中国教区宣教部社会委員会では、7月3日に講演会を行った。新型コロナ感染拡大の状況の中で、孤立し、生活面でも精神面でも追い詰められた若者の自殺が増えているという報道、またステイホームの中で家庭内暴力が増えているという報道に触れ、その現状を知りたいという思いから、テーマは「今、顕在化している自死、子どもへの虐待、家庭でのDVについて」とした。

講師は、『ネグレクト真奈ちゃんはなぜ死んだか』（小学館文庫）などの著書などで知られている杉山春さんにお願いした。杉山さんは以前NHKテレビの「あさイチ」に出演時、賛美歌を歌っていたのでクリスチャンであることを知っていた。また、今回のテーマにぴったりだと社会委員会で話し合い、依頼させてもらった。

新型コロナウイルスの蔓延防止のためズームでの開催となり、43名の参加があった。岡山県外からの参加や県内の児童相談所や養護施設の職員の参加もあった。1時間の講演と30分の質疑応答というプログラムだった。

参加者からの感想を紹介することで、当日の様子をお伝えできればと思う。「虐待のニュースになると、いつも加害者に対しての非難が集中します。杉山さんのお話を聞いて、加害者のバックグラウンドにも様々な事柄があり、報道されないことも多々あるのだと思いました」。

また地域の子育て支援をしている参加者がこんな感想を寄せてくれた。「支援者が親子の課題を見誤ると支援が間違った方向に行ってしまうことが心に残りました。親子、家族の深い部分に何があるのかを想像しながら、慎重に親子とかかわる視点を持つ必要があると思いました。支援を受けられる時より、そこから離れてしまった時の方が深刻度が増している可能性があることを念頭におく必要があると思いました。また、DVや虐待による支配やコントロール下にいる母親や子どもに気づける支援者、地域の大人でありたいと思いました」。

教会が、今、コロナ禍の中にあって自分たちの身を守りつつも、その周りにいる方々、特に自己責任論が前面に押し出されている中で、孤立している方々のニーズにどれだけ具体的に応えていけるか、そのことを改めて考えさせられる機会になったと思う。

（延藤好英報）

★《東京教区東支区》教育部主催 第55回「中高生連合キャンプ」

一つとされている恵みを味わう

東京教区東支区では教育部主催で毎年中高生連合キャンプを計画している。対象は各教会中学1年生から高校3年生。島嶼部（伊豆諸島）の教会がある東支区は、特に夏に集まるキャンプを大切にしてきた。昨年来のコロナ禍にあって、毎年の宿泊を伴う形でのキャンプが適わず、昨年初めてズームを用いてリモートキャンプを開催した。準備から当日に至るまで、洗礼を受け、教会から派遣された青年たちがリーダーとして話し合い、祈り合い、作り上げてきている。

今年も8月15日、14時から16時の日程で第55回東支区中高生連合キャンプをズームにて開催することができた。東京都内は緊急事態宣言が発令され、CSも休会としている教会が多い中、与えられた参加者は5教会41名。うち中高生14名、初参加者も6名与えられた。

内容は開会礼拝、自己紹介などを含めて親睦を深めるゲーム、賛美、最後に閉会礼拝。今年はテーマを「ともだち」、聖書箇所はマタイによる福音書18章18～20節とし、一つところに集まることが出来なくても、主イエス・キリストにあって一つとされている恵みをプログラム全体を通して味わうことができた。

「ともだち」をテーマに

この連合キャンプで特徴的なのは毎年、プログラムの最後に「卒業式」を行っていることである。高校3年生はキャンパーとして最後になるが、卒業しても来年以降リーダーとしてこのキャンプで一緒に過ごすことが出来るように、思いを込めたTシャツをプレゼントする。このTシャツもリーダーたちがデザインから発注まで行い、寄せ書きをし、プレゼントしている。

ここまで一度も休むことなく、続けられてきた東支区中高生連合キャンプ。各教会からの祈りに押し出され、キャンパーたちがキャンプをきっかけに洗礼へと導かれてきた。またリーダーの信仰の成長の場としても用いられてきた。これからも用いられるように、このキャンプ、中高生、青年たちのことを覚えていただければ幸いである。

（堀川　樹報）

公　告

教師検定委員会では、教師検定規則第6条⑥に基づき、同規則第3条6号対象者（所謂Cコース受験者）に対する認定面接を左記のように実施します。

2022年秋季試験以降に新たにCコース受験を志願される方は、本委員会の指定した書類を**2022年1月14日（金）**までにご提出いただき、左記日程の面接にご参加ください。

なお、面接要領・提出書類用紙については、百円切手を同封の上、本委員会事務局に直接お申込みください。

★認定面接

日時　**2022年2月24日（木）午後**

オンライン（ズーム）による

なお、認定面接予定者には、書類受付後、案内通知を送付します。

2021年10月9日

日本基督教団教師検定委員会

〒169－0051　東京都新宿区西早稲田2－3－18－31（電話03－3202－0546）

★《西中国教区》宣教委員会社会部主催「災害対策セミナー」

つながりをつくる教会の役割を考える

各地で起きる自然災害。私たちは自然災害への備えをしているのだろうか。まずは、一人一人、防災への意識を持っていこうとの思いで、7月30日、神石高原町油木コミュニティーセンターにおいて、西中国教区宣教委員会社会部の主催で災害対策セミナー「災害の時、わたしたちにできることは?」を開催した。

セミナーは、広島県神石郡神石高原町を拠点に活動する認定NPO法人ピースウィンズ・ジャパンの皆さんの協力を得て行われた。ピースウィンズ・ジャパンは、世界各地で災害支援や難民支援などを行っている団体である。災害後だけでなく、防災・減災のために今回のような学習会も行っている。

自然災害は、人がコントロールできるものではない。しかし、今回私たちが学んだように、一人一人が学び、備えを行うことで、被害を減らすことができるのだと思う。

今回のセミナーで、多くの学びを得たが、避難所生活の実態の学びが印象に残っている。避難所生活がいかに大変かということを知らされた。報道では見ていたものの、想像以上である。実際にはこんなものではない、まだまだ知らない苦労があるかと思うが、想像することから、防災、減災は始まると思う。それは、災害発生後においても言えることかと思う。

ピースウィンズ・ジャパンが、神石高原町に拠点を移してから、スタッフの方が油木教会の礼拝に出席するようになったそうだ。そのつながりから、今回のセミナーが実現した。災害への備えは、今回学んだこともとても大切だが、何よりもこのような人とのつながりが大切であると改めて思わされている。地域の中にある教会として、常日頃から地域とのつながりをつくることの大切さを思うと共に、つながりを得にくい方々の存在を大切にすることが、教会の役割ではないかと考えさせられる時となった。

（月下星志報）

写真提供
認定NPO法人 ピースウィンズ・ジャパン
空飛ぶ捜索医療団 ARROWS

▼教育委員会▲

台湾ユースミッションで内容の濃い交流

第9回（6月22日）と第10回（9月7日）の教育委員会は、それぞれがオンラインで開かれた。2回の委員会を通して報告された内容には、まず2021年2月19～20日に行われた台湾ユースミッション2020がある（台湾から5名、日本から7名、その他日本スタッフ9名参加）。今回は新型コロナ感染防止からオンライン開催となったが、青年たちの努力と工夫によって内容の濃い交流となり、制限の多い状況下にありつつも実施できたことが高く評価された。その反面、オンライン上で親しくなることの難しさを感じたなどの感想があがっている。また、こうした開催案内を各教会から個々の青年に向けて如何に届けるか。周知されるための工夫が今後の課題として残った。次回は台湾への訪問予定だが、対面での開催が願われている。

クリスマス献金に関しては2020年度に献げられた421件の献金が次の3カ所に届けられた。(1)公益財団法人アジア保健研修所（AHI）に180万円、(2)東北教区放射能問題支援対策室いずみに180万円、(3)緊急支援としてアハリー・アラブ病院（パレスチナ・ガザ地区）に50万円。

そして、委員会では2021年度のクリスマス献金の目標額を800万円とし、海外への送り先にはミャンマー関係に2カ所、国内への送り先は北海教区アイヌ民族情報センターと東北教区放射能問題支援対策室いずみに決定した。

教区教育担当者会に関しては、前回2020年2月には実施（清水教会・清水国際高等学校訪問）できたものの、今は学校訪問が難しいため、オンラインでの開催を検討中である。キリスト教主義の学校と教会の連携について考える機会となればと考えている。

その他としては、キリスト教教育主事認定試験の日程（2022年3月4日）の決定と、幼稚園融資実施要綱の変更について継続審議となっている。

（横山ゆずり報）

◆教区青年担当者会◆

「青年たちは何を求めている?」をテーマに

教区青年担当者会が9月6日、オンラインで開催され21名の青年担当者を含む31名が参加した。「青年たちは何を求めている?」をテーマとして青年たちが今何を求めているのか思い巡らしつつ、これからの青年の活動のために何ができるのか共に考える機会になった。

今回は、コロナ禍での活動を紹介してもらった。

最初に東京教区南支区教育委員会による「U-29（アンダー29）オンライン」の報告をキスト岡崎さゆ里氏が行った。陣内大蔵氏によるミュージックライブとトーク、対談を事前に収録し、配信当日はチャットの書き込みに生放送で応答しユーチューブで配信している。

次に神奈川教区青年委員会による「青年のつどい『持ち寄りライブ・オンライン』」を北口沙弥香氏と平良愛香氏が報告した。これは一昨年から継続されている音楽と食事の持ち寄りと分かち合いがコンセプトの集いであるが、実際に集まることができなくなりズームを用いて開催された。

それぞれの活動の反省が分かち合われたが、印象に残ったのは、制限のある中でも工夫を凝らすことで、青年たちが出会い親しくなり励まされる機会となっていたことである。

その後全参加者から活動の報告を受けた。その中には前回の担当者会に刺激を受けてネットによる活動を始めたという声があった。共通する課題の一つは広報である。コロナ禍によって青年の集いを企画しても案内が青年まで届かない現状がある。そのためにSNSを活用した例も紹介された。教区の青年の活動のために「青年プラットフォーム」のサイトをさらに活用していただければと思う。教区青年担当者会は、各教区の情報交換の場として毎年開催されている。今回も顔と顔を合わせて参加できないことは残念ではあるが、オンラインでは例年より多くの参加者が与えられている。これからも青年担当者を励まし、青年伝道に役立つアイデアを発信できればと思う。

（増田将平報）

事務局報

井上孝仁（八尾教会主任担任教師）

21年8月20日逝去、67歳。大阪府生まれ。84年同志社大学大学院卒業、同年より天満、福岡弥生、愛知、岡山、八尾教会を牧会。

遺族は妻・井上奏さん。

森田弘道（愛泉教会担任教師）

21年8月28日逝去、84歳。東京都生まれ。61年東京神学大学大学院卒業、同年より弘前、愛の泉、愛泉教会を牧会。

遺族は妻・森田愛香さん。

佐々木久慶（無任所教師）

21年9月11日逝去、83歳。岩手県生まれ。63年東京神学大学大学院卒業、同年より釜石鈴子教会を牧会し、東奥義塾高校に務め、大館教会を牧会。

遺族は息・佐々木潤さん。

教師検定試験公告

2022年春季教師検定試験を左記の要領で行います。

一、受験要綱の申し込み
受験要綱と教団指定の願書用紙は160円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師（A、B、Cコースの別も）受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。
なお、正教師受験志願者は「教師検定規則第12条②」によるものに限ります。

二、受験願書の提出
受験願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。
①教区締切　2021年11月15日（月）
（教区により締切が早まる場合がありますので、教区事務所に確認してください）
②教団締切　2021年12月15日（水）
（各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です）
＊受験料は正教師1万3千円、補教師1万円

三、補教師について
①「説教」「釈義」の課題テキスト
旧約　申命記30章15～20節
新約　マルコによる福音書8章31節～9章1節
②コースによって「説教」「釈義」の提出内容が異なりますので、必ず受験要綱でご確認ください。
③補教師（CⅢコース）の牧会学の課題
『牧会とは何か』について論述してください。
④Aコースについては、教師検定規則第4条第3号にもとづく試験が実施されます。同対象者は、神学校を通して説明をうけ、それにもとづく手続をおこなってください。

四、正教師について
受験志願者は、直接教師検定委員会までお問い合わせください。

五、提出物（説教、釈義、牧会学等）締切について
当委員会への提出締切日は、2021年12月17日（金）午前中必着です。

六、学科試験と面接試験について
新型コロナウイルス感染状況を鑑み、学科試験は、2022年2月8日（火）～21日（月）にレポート試験として実施し、面接試験は2月23日（水）、2月24日（木）にオンラインで実施します。詳細は受験志願者に通知いたします。不明な点は直接、当委員会へお問い合せください。

2021年10月9日
日本基督教団教師検定委員会
〒169－0051
東京都新宿区西早稲田2－3－18－31
電話　03－3202－0546

伝道報告

伝道のともしび TOMOSHIBI

七十二人は喜んで帰って来て、こう言った。…イエスは言われた。「あなたがたの名が天に書き記されていることを喜びなさい。」
ルカによる福音書第10章17節〜20節

祈りに支えられ、感謝をこめて

社会福祉法人賛育会 理事・特別顧問　島田　茂

各地で災害をもたらした2019年10月の台風19号から2年が経ちました。社会福祉法人賛育会が運営する豊野事業所（長野市）は、千曲川の堤防決壊により、全施設が一階天井まで浸水し、甚大な損害を受けました。

今年4月で1年半に及んだ復旧工事が完了し、予定していた事業を全て再開し、被災前以上に地域の方々に利用していただいています。日本キリスト教団東海教区を始め、各地の教会と教会員の皆様からのお祈りとご寄付に深く感謝申し上げます。

当時、入居されていた276名の方々は、垂直避難により人的被害はありませんでしたが、DMAT（災害派遣医療チーム）や特定非営利活動法人AMDA等の支援を受け、全員、他の病院や施設に避難していただくとともに、介護医療院、老人保健施設、特別養護老人ホーム、軽費老人ホームの入居系4施設とクリニック・訪問介護など通所系の全事業を停止しました。

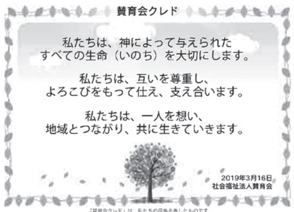
イエス・キリストに教えられた隣人愛のミッションに基づき「地域の復興なくして、豊野事業所の復興なし」を合言葉に、被災した地域支援に被災直後から休みなく取り組みました。瓦礫の撤去に始まり、社協や地域のNPO、県外のボランティア団体とも協働して、支え合いセンター「まちの縁側ぬくぬく亭」の開設と運営に関わりました。最大で15名の専従職員を配置して、被災による住宅解体のための汚泥除去、個別訪問、休校中の中学3年生の学習支援、炊き出し、足湯などのイベントや作業と傾聴を実施してきました。特に新型コロナウイルスの感染が広がる中、「被災者を孤立させない」という思いから、配食や戸別訪問の強化、電話による励ましなど、三密を避けながらできる支援を継続しました。

賛育会は、2018年7月に中村基信常務理事（東京池袋教会員）のリーダーシップによってミッションサポート部が開設され、専従職員、チャプレン、そして、私の4名が担当することになりました。年間聖句・月間聖句・讃美歌を制定し、各施設への聖書・讃美歌の配備等や研修でのキリスト教理解の強化を始め、職員へのミッションの浸透を図っています。

墨田区にある賛育会病院では、山崎正幸チャプレンを中心に2019年から金曜日の昼に礼拝を行うようになりました。新型コロナの影響で昨年3月末から集まっての礼拝は休止していますが、チャプレンメッセージの配信は継続しています。法人事務局ではテレビ会議システムによる朝礼で、月間聖句の拝読と祈りから業務をスタートすることが定着しています。

今年4月には病院の院長に心臓血管外科医の高本眞一氏が就任し、キリスト教に基づいた「患者とともに生きる」医療の実践と改革が始まっています。9月からは新型コロナ感染患者受入れ病床を広げ、感染した妊婦の出産も支えています。

クリスチャンの医師、看護師、介護士、保育士等職員を求めています。賛育会クレドの実現のために教会員の皆様のお支えとお祈りをお願いいたします。



上、賛育会病院
中、被災した豊野事業所
下、賛育会クレド

▼在日韓国朝鮮人連帯特設委員会▼

「朝鮮半島のキリスト教事情」をテーマに学習会

8月30日、オンライン会議で第6回在日韓国朝鮮人連帯特設委員会が開催された。

様々な日韓問題に対して当委員会としての見解をどう持つかが課題になっていたため、今回は始めに10年以上教団の韓国派遣宣教師だった洛雲海（ナグネ）牧師（奥沢教会、前長老会神学大学校教員）による学習会をもった。テーマは、朝鮮半島のキリスト教事情。内容は①韓国教会とは何か、②キリスト者の比率、③キリスト教の韓国政界への影響力、④韓国ナショナリズムとキリスト教（歴史的観点から：帝国日本触媒理論）、⑤韓国教会と神学の行方。いずれも洛雲海先生の深い知識と経験また鋭い洞察力による貴重な学習会であった。

報告事項は、①6月15日、第53回在日大韓基督教会と日本基督教団との宣教協力委員会がオンラインで開催され、宮本義弘委員長が出席し、その報告をした。テーマは「両教会の宣教課題と宣教協力〜コロナ禍における宣教」。②8月16〜17日、オンライン会議によって第31回全国キリスト教学校人権教育セミナーが開催され、宮本委員長が出席し、その報告をした。主な講演は、「コロナ危機・相談事例に見る子どもの生きづらさ」、山本秀樹（子どもの虐待防止ネットワークあいち副理事長）。「国境を越えた市民交流で学んだこと」、野平晋作（国際交流NGOピースボート共同代表）。③「外国人住民基本法と人民差別撤回基本法」の制定を求める署名を8月中に、全国の各教会・伝道所へ送った。

協議事項は、①来年1月に開催される第36回外キ協全国協議会へ宮本委員長を派遣する。②日韓問題を考える件として今回と同様に学習会を次回委員会の中で開催する。講師は、長尾有起宣教師（韓国基督教長老会、ソウル第一教会）。③8月に全国の教会・伝道所に送った「外国人住民基本法と人民差別撤回基本法」の制定を求める署名を12月に再度、各教会・伝道所へ送る。次回委員会は、来年2月1日にオンラインで行う。

（豊川昭夫報）

人 ひととき

守中　正さん

どんなことにも感謝

満州で生まれた守中正さんは、終戦の2年後、16才で日本に引き揚げるまで大連と瀋陽で過ごした。ソ連の侵攻により、北満州にいた開拓団が瀋陽に避難し、衛生状態が悪い中で発疹チフスが流行、大勢の人が命を落とす悲惨な状況だった。

満州医科大学（現中国医科大学）の学長だった父、清さんは、いかに医大を略奪から守り、中国に引き渡すかに苦心した。また、年の離れた姉、庸子さんの夫は、同大学の寄生虫学の教授で、虱が持つリケッチアを用いてワクチンを作ることに邁進、学生たちと虱を集めた。幸い、ワクチンは出来たものの、接種を拒んだ庸子さんは、発疹チフスに感染し召されてしまった。

正さんは、引き揚げ後、大学で農学部に進み、稲の病害について研究する。卒業後は、福山の農業試験場、つくばの熱帯農業研究センター等に務めた他、国際協力機構で、タイやブラジルに派遣され、農業研究協力に携わった。

文化が異なり、立場や利害がある人々と協力していく時、関係が緊張することもあったが、「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい」（コロサイ3・23）との御言葉に励まされ、心を込めて取り組んだという。東南アジアでは、しばしば占領時代の痕跡に接したが、現地の人々が好意的に関わりを持ってくれたことが印象に残っている。

満州で友人に誘われて教会に通い始めた正さんは、大学時代に京都御幸町教会で受洗。その後、赴いた先々でキリスト者との出会いが与えられた。今、新型コロナウイルスにより自粛を余儀なくされているが、自らの歩みを振り返り、「神われらと共にいます」との信仰により、「どんなことにも（あらゆる状況でも）感謝」していると語る。

1931年生まれ。土浦教会員

メディアとしてのイエス・キリスト

この頃は、マスコミではなくメディアと呼ぶようになった。日本で国際的な催しが開かれる時など、「海外のメディアが到着しました！」と日本のメディアが伝えている。インターネットが普及し、SNSによる情報発信が盛んになされるようになり、もはや新聞やテレビによる情報の大衆伝達（マス・コミュニケーション）ということだけでは済まなくなっている。

マスコミと違いメディアは、きわめて限定的な情報を、より深く掘り下げて発信したり、情報の受け取り手との双方向のやり取りを行っている。単なる情報伝達の手段・方法ではなく、情報を発信する側と受け取る側とをつなぐ媒体なのである。

ところで、7月にオンラインで、東京神学大学教授会と教団役員の懇談会をもった際、これからの教会の伝道におけるメディア活用の検討ということが話題になった。その時すかさず、ある神学教師が、「キリストは神のメディアですからね」と言われた。さすがの発言である。たしかにイエス・キリストは、「神と人との間の仲介者（メディエイター）」（Iテモテ2・5）であられ、福音伝道のメディアであられる。

コロナ禍で、多くの教会で礼拝の動画配信等がなされている。対面での伝道活動が困難な状況において、メディアとしてのイエス・キリストを伝えていきたい。

（教団総会書記　雲然俊美）